

## クメール伝統織物研究所ワークショップに パソコンを寄贈しました

クメール伝統織物研究所がシエムリアップに開設しているワークショップには、現在、50人を超える地元の人たちが染め織りの研修を受けながら、活動に参加しています。現地と海外との通信や現地での事務処理を効果的に行うため、かねてよりパソコンの導入に必要性がいわれてきました。パソコンは、また、カンボジアのデジタルデバイドの解消にも一役買うことができると期待されていました。

アジア太平洋農耕文化の会が出版した『モンスーンアジアの村を歩く～市民流フィールドワークのすすめ』（家の光）の印税の一部をこのパソコンの購入にあて、現地を訪問した会からの交流団が、購入したパソコンを研究所に寄贈しました。

研究所では、寄贈されたパソコンをワークショップ活動の強化に活用するとともに、スタッフのパソコン訓練にも活用しています。写真は、贈られたパソコンを



困む地元スタッフたちの様子です。このパソコンを使い、インターネット経由で、カンボジアの村とわたしたちがもっと密接に交流できることを願って止みません。

## リサイクル・フロッピーを たくさん寄贈いただきました

「再生フロッピーディスクでカンボジア村興し支援を」 アンコール遺跡群とクメールシルクの画像集（スクリーンセーブ付き）製作のためのリサイクル・フロッピーディスク収集の呼びかけにたくさんの市民の反応がありました。



寄贈の呼びかけは、朝日新聞が記事にしてくださったこともあり、それに応じて、インターネット経由で数百におよぶ市民の方々から寄贈の申し出がありました。ご存じのように手薄な事務局体制のせいもあって、せっかく申し出てくださった方々全員からフロッピーディスクの寄贈をいただくと荷物の置き場もないありさまになることから、先着順でフロッピーディスクが5000枚程度になった時点で、受付を止めることにしました。

しかし、朝日新聞社の関連ホームページでその後も紹介されつづけていることから、現在でも時折、申し出

のメールが届いています。あらためて、インターネットの威力のすごさに驚嘆の念を禁じ得ません。

これの対応を担当したのは、役員の一員の山中速人氏でしたが、途中、受け取った電子メールの一部をあやまって消去してしまうなど、不手際がいろいろとありました。この場を借りて、ご協力いただいた方々に、お礼を申し上げますと同時に、不手際をおわびいたします。

いただいたフロッピーディスクは、順次、カンボジアの伝統織物研究所のワークショップに運び込み、現地の人たちの手で、画像集の製作に役立てていく予定です。